

向田邦子 年譜 <昭和4年(1929)11月28日~56年(1981)8月22日>

昭和25年 (21歳) 実践女子専門学校国語科卒業
財政文化社入社 社長秘書のかたわら、東京セリタリ・カレッジ 英語科夜間部へ通う

編集者時代

昭和27年 (23歳) 雄鶏社入社 映画専門誌「映画ストーリー」編集部配属
「映画ストーリー」(雄鶏社・2号・昭和27・9)の編集後記が初めての活字

昭和33年 (29歳) 初のテレビ脚本「ダイヤル110番」(日本テレビ)執筆

昭和35年 (31歳) 女性のフリーライター事務所「ガリーナクラブ」に参加
「週刊平凡」「週刊コウロン」などに執筆 雄鶏社を退社、フリーに

昭和36年 (32歳) 「新婦人」に初めて向田邦子の名前で執筆(「映画と生活」)

脚本家時代

昭和37年 (33歳) 「森繁の重役読本」(TBSラジオ)開始。7年間、2448回続く
初めてのエッセイ「精神的別居」発表(『中央公論』昭和37・12月号)

昭和39年 (35歳) 家を出てひとり暮らしを始める
「七人の孫」(TBS)の脚本執筆、人気脚本家の地位を築く

昭和45年 (41歳) 港区南青山に転居 「だいこんの花」(NET)スタート

昭和49年 (45歳) 「寺内貫太郎一家」(TBS)、「時間ですよ」(TBS)スタート

昭和50年 (46歳) 乳ガン発見、手術で3週間入院

作家時代

昭和51年 (47歳) 「銀座百点」に「父の詫び状」連載開始
「冬の運動家」(TBS・S52) 「家族熱」(TBS・S53)
「阿修羅のごとく」(NHK・S54) 「あ・うん」(NHK・S55)
「幸福」(TBS・S55) 「蛇蠍のごとく」(NHK・S56)
「隣りの女」(TBS・S56)と、シリアスな家族劇の秀作を生み出す

昭和55年 (51歳) 「花の名前」「かわうそ」「犬小屋」で第83回直木賞受賞

昭和56年 8月22日 台湾取材旅行中の航空機事故で死去

